

## 持続可能な価値の創造

JSRグループは、未来に向けて「持続的な成長」を成し遂げる企業として、企業理念「Materials Innovation — マテリアルを通じて価値を創造し、人間社会（人・社会・環境）に貢献します。」に立脚して様々なステークホルダーとの良好な関係を築き、信頼され、必要とされる企業市民になることを目指しています。そのために企業理念を実践する経営とCSRを一体のものと捉え、社会的課題の解決に取り組んでいます。



## 企業理念とCSRの考え方

経営とCSRが一体となって、社会にも、JSRグループにも利益を創出し、持続可能な地球環境や社会の実現に貢献します。

### JSRグループの企業理念と重要課題

#### 企業理念

##### Materials Innovation

マテリアルを通じて価値を創造し、  
人間社会(人・社会・環境)に貢献します。

##### 経営方針 一変わらぬ経営の軸

- 絶え間ない事業創造
- 企業風土の進化
- 企業価値の増大

##### 経営方針 —ステークホルダーへの責任

- 顧客・取引先への責任
- 従業員への責任
- 社会への責任
- 株主への責任

##### 行動指針 4つの“C”

- CHALLENGE (挑戦)
- COMMUNICATION (対話)
- COLLABORATION (協働)
- CULTIVATION (共育)

#### 解決すべき世の中の社会的課題

WE SUPPORT



- 収益向上に向けた事業展開
- グローバル競争の強化
- 次世代事業の育成

### Innovation

#### 事業活動で貢献する社会的課題

- 環境配慮型製品
- 健康長寿
- 衛生・医療へのアクセスの向上
- 生活の質・幸福

### Sustainability

#### 事業活動によって生じる社会的課題

- 安全衛生の取り組み
- 環境負荷低減
- 気候変動緩和
- 水資源の保全
- 廃棄物削減
- 人権
- 労働環境
- ダイバーシティ
- サプライチェーンマネジメント
- ステークホルダー・コミュニケーション

持続可能な地球環境や社会の実現

## CSRマネジメント

JSRグループは企業理念「Materials Innovation — マテリアルを通じて価値を創造し、人間社会(人・社会・環境)に貢献します。」に立脚して様々なステークホルダーとの良好な関係を築き、信頼され、必要とされる企業市民となることを目指しています。そのために企業理念を実践する経営とCSRを一体のものと捉え、社会的重要な課題の解決に取り組みます。

### CSR推進体制

JSRは、代表取締役直属のCSR会議を設置して、JSRグループのCSRを推進しています。CSR会議の下、企業倫理の啓発とコンプライアンスの強化を図る「企業倫理委員会」、レスポンシブル・ケアを推進し持続可能な社会の実現を目指す「レスポンシブル・ケア(RC)推進委員会」、リスク管理体制の一段の強化を目指す「リスク管理委員会」、およびJSRグループが取り組むべき社会貢献を検討、推進する「社会貢献委員会」の4つの委員会を設置しています。CSR会議は、これら4つの委員会の活動を統括・指導し、年4回の定例会議と臨時会議を通じてCSRマネジメント強化と推進に努めています。

### コンプライアンス

JSRグループは、法令を遵守することは当然のこととして、経営方針「ステークホルダーへの責任」を果たすために企業倫理を実践します。企業倫理の具体的なガイドラインとして、「JSRグループ企業倫理要綱」を制定しています。企業倫理委員会は、従業員が高い倫理観を維持し、公平かつ誠実に行動するよう働きかける活動を推進しています。国内外の事業所で「企業倫理意識調査」を実施し、従業員の企業倫理意識の状況を把握し、課題を特定、対応するフォローアッププランを作成します。コンプライアンスの強化のため、2013年4月に法令に関する重要事項を記載した「コンプライアンスハンドブック」を作成し、全従業員に配布しています。JSRは、韓国と中国の規制に基づくコンプライアンスハンドブックを発行し、韓国と中国のJSRグループ会社に配布しています。

### リスク管理

JSRグループは、重大な危機の発生を未然に防ぐこと、および万一重大な危機が発生した場合に事業活動への影響を最小限にとどめることを経営の重要課題と位置づけ、リスク管理活動に取り組んでいます。JSRグループでは、独自のリスク管理システムを運用し、爆発、火災、大地震、テロ攻撃を含む幅広いリスクを定期的に特定・評価し、対策を策定します。洗い出されたリスクのうち事業継続に大きな影響を及ぼす可能性があるリスクを「JSRグループ重要リスク」と位置づけて経営層自ら把握したリスクのモニタリングと定期的な見直しで、未然防止と危機発生に備えた体制の構築と維持を図っています。

JSRは、毎年1回、社長を本部長とする災害対策本部メンバーが参加する危機管理訓練を実施しています。2017年度は、首都直下型地震(東京湾北部を中心とした大規模地震)が発生し、本社だけでなく、グループ企業も含めた関東地方の各拠点が被災したとの想定で危機管理訓練を実施しました。JSRグループは、今後も様々な危機を想定した訓練などを通じて、災害時の安全確保および、被害抑制と事業継続のため備えをしていきます。

### ステークホルダーへの責任

「全ての起点は社会からの期待」との認識のもと、自分勝手な判断基準に陥ることのないよう、ステークホルダーとの対話を重視しています。JSRグループでは、「ステークホルダー」という用語は、全顧客・取引先、従業員、社会、および株主を指します。

## CSRマネジメント

### 顧客および取引先様に対する責任

お客様のニーズに合った「革新素材」「良い製品」を提供し、より良い社会の実現に貢献していくことは、当社グループの最も重要な役割であると考えています。お客様に安心してお使いいただけるよう、当社グループでは品質保証活動、製品安全に対する取り組みにも力を入れています。これらの取り組みが認められ、世界の顧客からトップランクのサプライヤー賞を受賞しています。

一方、取引先様とのコミュニケーションを通じて、JSRの事業活動の改善につなげています。

### 従業員への責任

従業員が課題を正しく認識、解決でき、組織能力が維持向上できる仕組みの構築と企業文化の醸成に取り組んでいます。また、働き方改革(ワークスタイル・イノベーション)を推進し、業務の付加価値の向上への取り組みにも力を入れています。一方で、JSRグループのグローバル人事体制を整備し、グループ・グローバルレベルでの人材育成・人材管理を行っています。JSRグループ全体で多様な人材の活躍により相乗効果が生まれています。

### 地域・社会への責任

JSRグループは、事業活動を行う地域・社会からの高い信頼を得るため、レスポンシブル・ケア活動を通じて、環境負荷低減に取り組んでいます。また、生物多様性や廃棄物の削減や再資源化等の資源循環、社会貢献活動など、社会の持続可能な開発への取り組みを行っています。

### 株主への責任

IR活動を通して、株主・投資家に経営状況と会社の方針について迅速かつ正確にお伝えするよう努めています。定時株主総会では、集中日を避けた早期開催、株主総会招集通知の早期発送、インターネットによる議決権行使の採用などを実施し、株主の議決権行使を円滑にしています。四半期ごとの決算説明会のほかに、機関投資家・アナリスト向けセミナー(技術セミナーなどを含む)の開催など、幅広く双方向のコミュニケーションを図っています。

マテリアルを通じた事業機会の創出により企業価値の向上を目指します。

- 継続的な経営効率の向上。
- 透明性を高め、健全な企業経営の実践による信頼醸成。
- JSRグループは、2009年4月、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に参加しました。グローバルに事業活動する企業として、グローバル・コンパクト10原則が謳う人権・労働・環境・腐敗防止へのより一層の配慮が必要と認識し、より積極的に企業の社会的責任を果たしていきます。また国連で2015年に採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」が掲げる目標についても、事業活動を通じて達成すべく取り組みを進めていきます。

## CSRパフォーマンス

### 社外からの評価

JSRグループのCSR活動は、外部評価機関より評価を受けています。活動を評価した以下のESG指数、SRI(社会的責任投資)指標や銘柄に組み入れられています。下記以外にもグローバルコンパクト100に選定されています。加えてJSRは子育てサポート企業として厚生労働大臣の認定を受け、次世代認定マーク「くるみん」を取得しています。

ESG指数、SRI指標、および銘柄への組み入れ (2018年7月1日現在)



**FTSE4Good(英国)**  
 当社は2004年よりFTSE4Good Index Seriesの構成銘柄として選定されています。



**EURONEXT Vigeo Eiris World 120(フランス)**  
 「EURONEXT Vigeo Eiris World 120 Index」に世界120社の1社として選定されています。



**ETHIBEL PIONEER & EXCELLENCE Investment Registers(ベルギー)**  
 2017年6月30日に、国際的なSRIユニバースである「Ethibel Pioneer & Excellence Investment Registers」に再選定されています。



**MS-SRI(日本)(2018.1.4)**  
 2009年より、日本国内の代表的なSRI指標である「モーニングスター社会的責任投資株価指数\*」に選定されています。



**SNAMサステナブル投資ファンド(日本)**  
 SNAM(損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント)からESG(環境、社会、ガバナンス)の評価が高い企業として「SNAMサステナブル投資ファンド」の投資対象銘柄に選定されました。



**FTSE Blossom Japan Index(日本)**  
 FTSE Russell から、ESG(環境、社会、ガバナンス)について優れた企業として、「FTSE Blossom Japan Index」の投資銘柄に選定されました。



**MSCI日本株女性活躍指数(WIN)(日本)**  
 MSCIから、性別多様性に優れた企業として「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」の投資銘柄に選定されました。



**健康経営優良法人2018 ~ホワイト500~**  
 経済産業省と日本健康会議より、優良な健康経営を実践している企業として認定されました。

※「モーニングスター社会的責任投資株価指数」は、国内上場企業の中から社会性に優れた企業と評価する150社を選定した社会的責任投資株価指数です。本株価指数は、将来のパフォーマンスを保証するものではなく、いかなる責任も負いません。著作権等一切の権利はモーニングスター株式会社ならびにMorningstar, Inc.に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

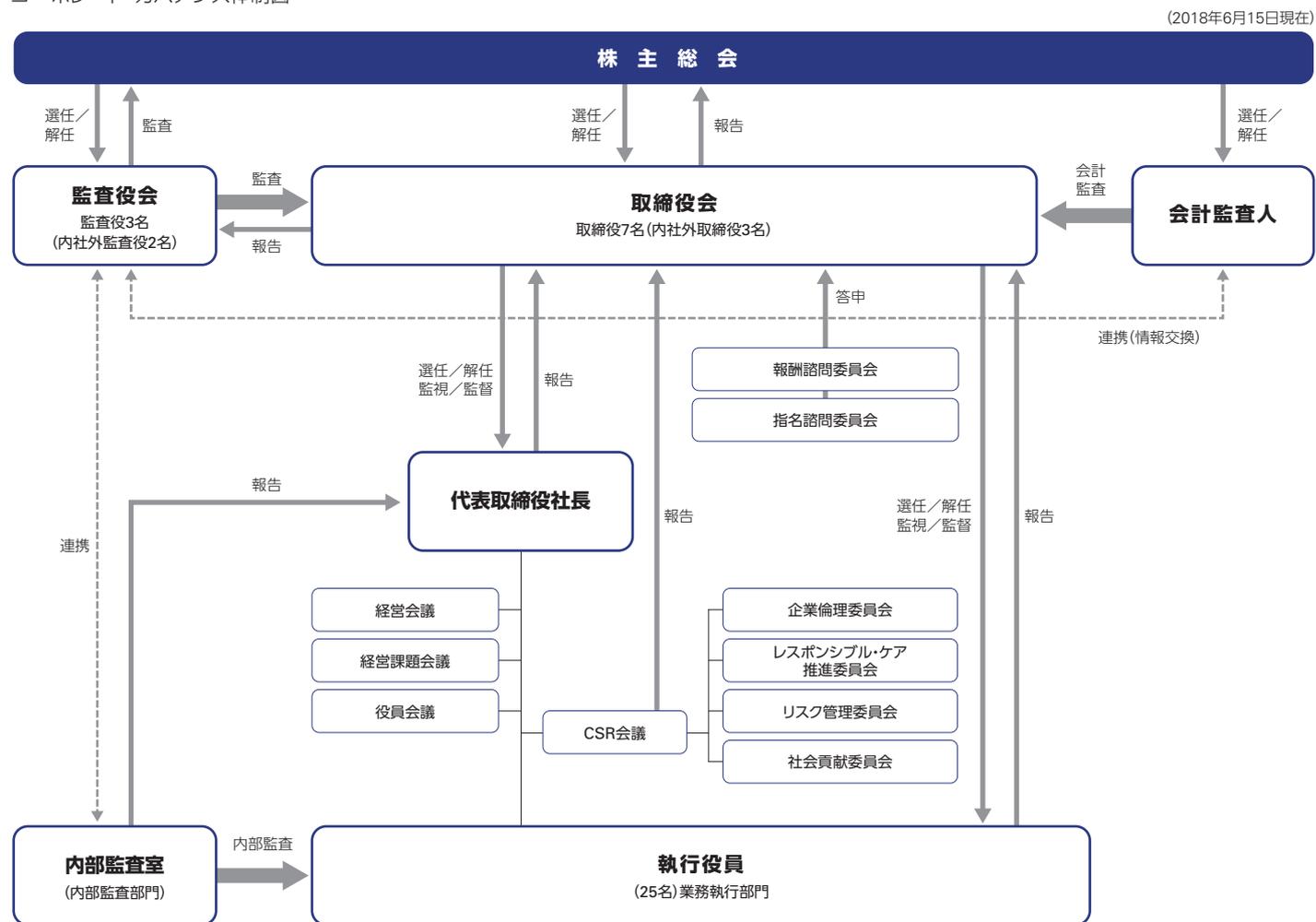
## コーポレート・ガバナンス

### 信頼され、魅力ある企業構造を維持するために

JSRは、株主およびその他全てのステークホルダーの信頼を得て、魅力ある企業構造を構築するため、コーポレート・ガバナンス体制の改善に絶えず取り組んでおります。当社は、コーポレート・ガバナンスコードで定められた各項目に関する取り組みを通じてコーポレート・ガバナンスを強化・拡充し、公正、透明かつ迅速な方法で経営プロセスを実施してまいります。

対象期間：2017年4月1日—2018年3月31日

コーポレート・ガバナンス体制図



## コーポレート・ガバナンス

### 当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方と基本方針

#### 1. 当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本方針

- (1) 当社グループは、企業理念「Materials Innovation—マテリアルを通じて価値を創造し、人間社会(人・社会・環境)に貢献します。」を着実に実現しうる企業として、経営の効率化と透明性・健全性の維持により継続的に企業価値を創造し、全てのステークホルダーから信頼され、満足される魅力ある企業の実現を目指しております。
- (2) このため、コーポレート・ガバナンスの拡充・強化を経営上の重要な課題として取り組んでおります。

#### 2. コーポレート・ガバナンスの体制

- (1) 当社は、監査役設置会社として、取締役会と監査役による業務執行の監視・監督を行う制度を基礎としております。
- (2) 執行役員制度の導入、独立性と豊富な事業経験や高度な専門性を有する社外取締役および社外監査役の選任により、経営監督機能を強化するとともに、意思決定や業務執行の迅速化・効率化を図り、経営の透明性・健全性の維持に継続的に努めております。
- (3) 取締役会は、経営理念を確立し、経営戦略の方向付けをはじめとして、重要な意思決定を行っております。
- (4) 取締役会は、役員報酬制度を通じて、経営陣による適切なリスクテイク、企業家精神発揮の環境を整えております。
- (5) 取締役会は、業績評価・役員人事等を通じて、取締役・経営陣の監督を行っております。
- (6) 現在の取締役会は、取締役7名のうち、3名が独立性ならびに豊富な企業経営および事業運営の経験を有する独立社外取締役で構成されております。今後についても独立性ならびに豊富な企業経営および事業運営の経験を有する独立社外取締役を2名以上選任し、企業価値向上を図るとともに、経営の監督を実施いたします。

- (7) 現在の監査役会は、監査役3名のうち、2名が会社から独立した立場の豊富な経験を有する弁護士および税理士資格を有する公認会計士で構成されております。今後についても、独立性ならびに法律や会計等に関する幅広い経験・知見を有する独立社外監査役を2名選任し、取締役および経営陣の業務執行につき、実効性の高い監査を実施いたします。
- (8) 役員報酬制度の客観性・透明性を確保するため、メンバーの過半数を独立社外取締役で構成し、独立社外取締役が委員長を務める報酬諮問委員会を設置し、報酬の基本方針、報酬体系、業績連動の仕組み、目標設定や業績評価等につき審議し、取締役会に答申しております。
- (9) 役員報酬は、中長期的な企業価値の向上を図ることを目的として、多様で優秀な人材を引き付け、短期・中長期の業績に連動して経営者と株主が利益を共有するものであり、また、透明性の高いものであることを基本方針としております。現在の役員報酬は、固定報酬としての基本報酬、単年度の会社業績達成度に連動する年次賞与、株主の皆様との価値共有の早期化を促進することを目的とした譲渡制限付株式による報酬、ならびに中長期の会社業績達成度に連動する中期業績連動賞与により構成しております。社外取締役と監査役の報酬はその職務の性格から基本報酬のみとしております。
- (10) 役員選任の方針と手続きの透明性を確保するため、メンバーの過半数を独立社外取締役で構成し、独立社外取締役が委員長を務める指名諮問委員会を設置し、取締役会に必要な知識・経験・能力の多様性と規模の基準および役員選任の基準と手続き、ならびに社長後継者・取締役・役付執行役員(上席執行役員を含む)および監査役候補者について審議し、取締役会に答申しております。

## コーポレート・ガバナンス

### 3.ステークホルダーとの関係

(1)当社は、経営方針の重要な柱の一つとして、「ステークホルダーへの責任」(顧客・取引先に対する責任、従業員に対する責任、社会に対する責任、株主に対する責任)を定めております。

(2)当社は、社会・環境問題をはじめとする持続可能性をめぐる課題につき適切な対応を行うとともに、社内の女性の活用を含む多様性の確保を推進しております。

(参照:当社CSRレポートweb版)

(3)当社グループは、「ステークホルダーへの責任」を果たすため、「JSRグループ企業倫理要綱」として当社グループの役員、従業員の行動規範を定め、その周知徹底と遵守に努めております。

(参照:JSRグループ企業倫理要綱)

### 4.株主の権利・平等性の確保

(1)当社は、従来から実施している株主総会において株主が適切に議決権行使を行える環境の整備を継続しております。

1)従来から実施している、株主総会の早期(6月中旬)開催、招集通知の総会開催日3週間前迄の送付、インターネット等による議決権行使の採用、機関投資家向け議決権行使プラットフォームへの参加、招集通知記載内容の充実、招集通知の英訳等を継続いたします。

2)今後、株主総会に出席を希望する信託銀行名義で株式を保有する機関投資家等への対応方法を検討いたします。

(2)当社は、資本政策の基本方針を株主に説明し、買収防衛策の導入、MBOや増資等、既存の株主の利益を害する可能性のある政策については、その必要性・合理性を十分に検討し、適切な手続きを行い、株主に説明いたします。

(3)政策保有株式については、事業経営戦略上の合理性および、経済合理性等を総合的に勘案し保有しております。取締役会において、政策保有株式の保有状況および保有方針を確認いたします。その議決権行使にあたっては、投資先企業の経営判断を十分に尊重する基本前提にたち、当該企業の中長期的な企業価値向上に資するかどうかの観点から、当該企業のコーポレート・ガバナンス体制および提案内容を評価し、総合的に賛否を判断しております。

### 5.資本政策

(1)当社は、継続的な企業価値創造のため、エラストマー事業・合成樹脂事業・デジタルソリューション事業・ライフサイエンス事業への成長投資を優先する一方、当社の業績と中長期的な資金需要を勘案し、配当と自己株式の取得を合わせた適切な株主還元を目指しております。

(2)ROE・ROIC等の資本効率指標の向上に継続的に取り組んでおります。

### 6.株主との対話

(1)当社は、以下の体制により、株主との建設的な対話を促進しております。

1)IR担当執行役員を定め、社長またはIR担当執行役員が、機関投資家向けの決算説明会ならびに中期経営計画説明会において、経営成績、財政状態、中期経営計画の内容・進捗状況等を説明しております。

2)毎年、社長またはIR担当執行役員が、国内外の機関投資家との面談により上記を説明しております。

3)対話により得られた投資家の意見や質問は、定期的に経営陣へフィードバックを行っております。

## コーポレート・ガバナンス

(2)株主との対話に際しては、インサイダー情報の適切な取り扱いに努めております。

### 7. 情報開示方針

- (1)ディスクロージャーポリシーを定め、情報開示の組織・体制を整備し、全社協力体制を構築することにより、情報開示の質を高め、迅速、正確、積極的かつ公平な情報開示に努めております。
- (2)ホームページには、決算財務情報のほか、当社の事業内容等の会社情報、環境への取り組みやレスポンシブル・ケア等のCSR情報、研究開発への取り組み等を掲載し、株主や投資家への会社情報の発信に努めております。

## 経営システム

### 1. 取締役会

取締役会は、7名の取締役からなり(内3名が、独立性ならびに豊富な企業経営および事業運営の経験を有する独立社外取締役)、原則として毎月1回開催し、経営戦略の方向付けを行い、重要な意思決定を行うとともに、取締役および執行役員職務の執行を監督しております。

コーポレート・ガバナンスを確保するため、取締役会の議長は代表取締役専務執行役員が務め、経営執行の最高責任者である代表取締役社長と経営の監視・監督をすべき取締役会の議長とを分離することとしております。また、独立社外監査役2名を含む監査役3名全員が出席し、意見陳述を行っております。

取締役会の諮問機関として報酬諮問委員会および指名諮問委員会を設置していますが、その詳細は、「当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方と基本方針2.(8)、(10)」をご参照ください。

### 2. 経営会議

経営会議は、経営の基本政策、経営方針、経営計画に係る事項ならびに各部門の重要な執行案件について、審議および方向付けを行い、または報告を受けます。経営会議に付議された議案のうち特に重要なものは、取締役会規程・同付議基準に基づき取締役会に上程され、その審議を受けております。

経営会議は、社長、役付執行役員および社長が指名する執行役員をもって構成し、意思決定の迅速化と業務運営の効率化を図り、重要な業務執行への対応を行っております。原則として毎週1回開催し、社長が議長を務めております。なお常勤監査役も参加しております。

### 3. 経営課題会議

経営課題会議は、経営の基本政策および経営方針にかかわる事項ならびに個別案件の背景にある基本方針や事業戦略の変更について、前広な議論あるいは情報・課題認識の共有により方向性の討議を行い、取締役会、経営会議の審議に反映させます。社長、役付執行役員をもって構成し、原則として毎月2回開催し、社長が議長を務めております。

### 4. 役員会議

役員会議は、社長および全執行役員(海外駐在の執行役員除く。ただし少なくとも年に1回は海外駐在執行役員も出席)をもって構成し、経営の状況および課題の周知徹底を図っております。原則として毎月1回開催し、社長が議長を務めております。なお常勤監査役も出席しております。

## コーポレート・ガバナンス

### 5. 監査役会および監査役

監査役会は、社外監査役2名を含む3名の監査役によって構成し、監査役会規程に基づき原則毎月1回開催し、重要事項について報告、協議、決議を行っております。社外監査役2名は、それぞれ弁護士と公認会計士・税理士で、かつ独立役員であり、専門的見地と独立した立場から監査を行っております。

監査役は、監査役監査基準に基づき取締役会のほか経営会議等の重要な会議に出席し、重要な意思決定の過程および業務の執行状況の把握に努めるとともに、会計監査人ならびに取締役および使用人から報告を受け、審議のうえ監査意見を形成しております。

### 6. 内部監査および監査役監査、会計監査の状況

#### (1) 監査役監査

監査役の監査につきましては上記「5. 監査役会および監査役」に記載のとおりであります。

#### (2) 内部監査

当社では当社グループの内部統制システムの実効性の向上を目的に、「経営監査室」を設置し、監査計画に基づき、各部門、国内外の当社グループ各社を対象として、コンプライアンス監査および業務監査等の内部監査を定期的実施し、その結果を社長、関連部門、監査役等に報告をしております。

#### (3) 会計監査

当社の会計監査人は、有限責任 あずさ監査法人です。監査役と会計監査人との連携につきましては、監査役は会計監査人と緊密な連携を保ち、会計監査人の監査計画の聴取や監査結果の報告を受けるだけでなく、期中においても必要な情報交換、意見交換を行っております。

### 7. CSR会議

当社グループのCSRは「良き企業市民」として誠実に行動し、ステークホルダーの皆様の期待に応えていくための行動様式であり、CSRを推進する目的でCSR会議を設置しております。

CSR会議の下には、「企業倫理委員会」、「レスポンシブル・ケア(RC)推進委員会」、「リスク管理委員会」、「社会貢献委員会」の4つの委員会を設置し、CSR会議はこれら4つの委員会の活動を統括・指導し、年4回の定例会議と臨時会議を通じてCSRマネジメント強化と推進に努めております。

## コーポレート・ガバナンス

### 取締役および監査役 (2018年3月31日時点)

代表取締役社長  
**小柴 満信**

常勤監査役  
**熊野 厚司**

代表取締役  
**川崎 弘一**

社外取締役  
**松田 譲**  
**菅田 史朗**  
**関 忠行**

取締役  
**川橋 信夫**  
**宮崎 秀樹**

社外監査役  
**加藤 久子**  
**森脇 純夫**

### 独立社外取締役 (2018年3月31日現在)

当社は、取締役会による経営の監督機能および適時適切な意思決定機能を一層強化するため、独立社外取締役3名を選任しております。幅広い事業経営の経験と会社から独立した観点を有する独立社外取締役を選任することにより、経営判断の合理性および経営の透明性・健全性を確保しております。

#### 松田 譲

松田氏は、協和発酵工業株式会社および協和発酵キリン株式会社の代表取締役社長を務められた後、同社の相談役を務めておられました。医療用医薬品およびバイオケミカルにおいて国際的な事業を営む会社の経営を通じての豊富な経験および会社から独立した社外の視点を、取締役会での重要な意思決定および職務執行の監督ならびにコーポレート・ガバナンスの強化に活かし、経営判断の合理性、経営の透明性・健全性の確保を通じて当社グループの企業価値の継続的向上に貢献いただいております。



### [当事業年度における主な活動状況]

当期開催の取締役会17回のうち17回に出席し、議案審議等につき必要な発言を適宜行うとともに、指名諮問委員会および報酬諮問委員会に出席し、経営判断の合理性および経営の透明性・健全性の確保に貢献いただいております。

#### 菅田 史朗

菅田史朗氏は、ウシオ電機株式会社の代表取締役社長を務められた後、現在も同社で特別顧問を務められており、また、公益社団法人経済同友会副代表幹事を務めておられました。光応用製品、産業用機械その他において国際的な事業を営む会社の経営や財界活動を通じての豊富な経験および会社から独立した社外の視点を、取締役会での重要な意思決定および職務執行の監督ならびにコーポレート・ガバナンスの強化に活かし、経営判断の合理性、経営の透明性・健全性の確保を通じて当社グループの企業価値の継続的向上に貢献いただいております。



### [当事業年度における主な活動状況]

当期開催の取締役会17回のうち17回に出席し、議案審議等につき必要な発言を適宜行うとともに、指名諮問委員会および報酬諮問委員会に出席し、経営判断の合理性および経営の透明性・健全性の確保に貢献いただいております。

## コーポレート・ガバナンス

### 関 忠行

関忠行氏は、伊藤忠商事株式会社の代表取締役副社長執行役員を務められた後、現在も同社で理事を務めておられます。総合会社として国際的な事業を営む会社の経営経験、CFOとしての財務・経理に関する豊富な経験および会社から独立した社外の視点を、取締役会での重要な意思決定および職務執行の監督ならびにコーポレート・ガバナンスの強化に活かし、経営判断の合理性、経営の透明性・健全性の確保を通じて当社グループの企業価値の継続的向上に貢献いただいているため、引き続き社外取締役候補者となりました。



#### [当事業年度における主な活動状況]

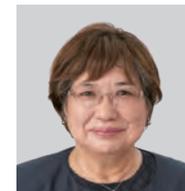
取締役就任後に開催された取締役会13回のうち13回に出席し、議案審議等につき必要な発言を適宜行うとともに、指名諮問委員会および報酬諮問委員会に出席し、経営判断の合理性および経営の透明性・健全性の確保に貢献いただいております。

### 独立社外監査役

当社は、監査役および監査役会による経営の監視機能を一層強化するため、常勤監査役1名と独立社外監査役2名を選任しております。高度な専門知識、幅広い経験と会社から独立した視点を有する公認会計士および弁護士を独立社外監査役として選任し、経営判断の合理性および経営の透明性・健全性を確保しております。

### 加藤 久子

加藤久子氏は、公認会計士および税理士としての財務・会計に関する広範な専門知識、豊富な経験、および会社から独立した社外の視点を、取締役の意思決定および業務執行状況の監査に活かし、当社の経営判断の合理性、経営の透明性・健全性の確保に貢献いただいております。



#### [当事業年度における主な活動状況]

当期開催の取締役会17回のうち17回に、監査役会19回のうち19回に出席し、取締役会および監査役会において議案審議等につき必要な発言を適宜行い、経営判断の合理性および経営の透明性・健全性の確保に貢献いただいております。

### 森脇 純夫

森脇純夫氏は、弁護士としての法律に関する広範な専門知識、豊富な経験および会社から独立した社外の視点を、取締役の意思決定および業務執行状況の監査に活かし、当社の経営判断の合理性、経営の透明性・健全性の確保に貢献いただいております。



#### [当事業年度における主な活動状況]

監査役就任後に開催された取締役会13回のうち13回に、監査役会14回のうち14回に出席し、取締役会および監査役会において議案審議等につき必要な発言を適宜行い、経営判断の合理性および経営の透明性・健全性の確保に貢献いただいております。

## コーポレート・ガバナンス

### 取締役および監査役



代表取締役社長  
**小柴 満信**



代表取締役 専務執行役員  
**川崎 弘一**



取締役 専務執行役員  
**川崎 信夫**



取締役  
**宮崎 秀樹**



常勤監査役  
**熊野 厚司**



社外取締役  
**松田 謙**



社外取締役  
**菅田 史朗**



社外取締役  
**関 忠行**



社外監査役  
**加藤 久子**



社外監査役  
**森脇 純夫**

### 役員(※取締役)

代表取締役 専務執行役員

**川崎 弘一**※  
 生産・技術、品質保証、原料機材調達、  
 生産物流、環境安全 担当  
 日本プチル(株) 取締役社長

取締役 専務執行役員

**川橋 信夫**※  
 研究開発、人材開発、ダイバーシティ推進 担当

常務執行役員

**平野 勇人**  
 エラストマー事業、合成樹脂事業 担当  
 エラストマー事業部長  
 兼 テクノUMG(株) 取締役社長

常務執行役員

**井上 勝也**  
 経営企画(グループ企業統括含む)、デジタル  
 ソリューション事業企画・開発 担当  
 経営企画部長  
 兼 JSR Micro (Changshu) Co., Ltd.  
 董事長

常務執行役員

**エリック ジョンソン**  
 ライフサイエンス事業、北米事業統括 担当  
 ライフサイエンス事業部長  
 兼 JSR Micro, Inc. 取締役社長

取締役 常務執行役員

**宮崎 秀樹**※  
 経理、財務、広報 担当

上席執行役員

**長友 崇敏**  
 JSR MOL Synthetic Rubber Ltd.  
 取締役社長

上席執行役員

**杉本 健**  
 電子材料事業 担当  
 電子材料事業部長

上席執行役員

**清水 喬雄**  
 社長室、システム戦略、業務プロセス刷新 担当  
 社長室長 兼 業務プロセス刷新推進室長

上席執行役員

**渡邊 毅**  
 中国事業統括 担当  
 JSR (Shanghai) Co., Ltd. 董事長

上席執行役員

**山脇 一公**  
 エラストマー事業 副担当  
 エラストマー副事業部長 兼 エラストマー事  
 業企画部長  
 兼 ジエイエスアール クレイトン エラストマー  
 (株) 取締役副社長  
 兼 JSR Elastomer Europe GmbH  
 代表取締役

上席執行役員

**土居 誠**  
 法務 担当  
 法務部長

上席執行役員

**神谷 紀一郎**  
 ライフサイエンス事業 副担当  
 ライフサイエンス副事業部長  
 兼 (株)医学微生物学研究所 取締役  
 兼 JSRライフサイエンスベンチャーキャピ  
 ル合同会社 職務執行者

上席執行役員

**山口 佳一**  
 ディスプレイソリューション事業 担当  
 JSR Micro Korea Co., Ltd. 代表理事

執行役員

**小林 英一**  
 JSR Micro, Inc. 取締役副社長

執行役員

**根本 宏明**  
 事業創出 担当

執行役員

**水野 陽一**  
 エッジコンピューティング事業 担当  
 エッジコンピューティング事業部長

執行役員

**中山 美加**  
 知的財産部長

執行役員

**佐伯 光一**  
 四日市工場 担当  
 四日市工場長

執行役員

**阿部 一至**  
 (株)エラストミックス 取締役社長  
 兼 日密科(株)有限(佛山)有限公司 董事長  
 兼 JSRグループ企業年金基金理事長

執行役員

**高橋 成治**  
 生産技術 副担当  
 SSBRグローバル生産統括部長

執行役員

**藤井 安文**  
 総務、秘書室、CSR 担当  
 総務部長 兼 秘書室長

執行役員

**山近 幹雄**  
 リチウムイオンキャパシタ事業 担当  
 JMエナジー(株) 取締役社長

執行役員

**ティム ローリー**  
 JSR Micro, Inc. 取締役副社長  
 兼 ライフサイエンス事業部バイオプロセス部長

執行役員

**原 弘一**  
 ライフサイエンス事業企画部長 兼 リチウム  
 イオンキャパシタ事業推進室  
 兼 (株)医学微生物学研究所 取締役